

**(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定に向けた
市民意識子どもの読書活動に取り組む団体からの意見聴取の概要**

1. 目的

(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定のため、日頃、子どもの読書活動の支援に取り組んでいる5団体から意見聴取をした。

2. 調査の時期

9月上旬から10月下旬までの間に実施

3. 団体の概要等

団体名	会員数	活動内容	活動場所	活動期間	対象者
ルフラン	15名	読み聞かせ、人形劇、ハンドベル演奏、ダンス、外国語等	高洲公民館 東野児童センター 北部小学校児童育成クラブ	8年	未就学児 小学生
すみれ	5名	読み聞かせ、エプロンシアター、手遊び、手品等	高洲公民館、 東野児童センター 若潮公園	12年	未就学児 小学生
浦安おはなしの会	—	読み聞かせ、ワークショップ、物作り等	市内全域 (小学校等)	24年	0歳～中学生、 妊娠期の母親
浦安図書館友の会	30名 (含学生2名)	市立図書館の支援(行事の手伝い)、科学遊び、千葉県図書館関係市民団体連絡会への出席等	中央図書館	25年	科学遊び : 3歳～大人
南小学校図書館ボランティア友の会	29名 賛助会員 5名	朝の読み聞かせの補助、人形劇、クラブの指導、児童の貸出リスト作成等	南小学校 幼稚園 児童育成クラブ 堀江公民館等	25年	未就学児 小学生

4. 意見聴取の主な結果から見た課題

(1) 市立図書館の児童サービスや各団体の読書活動を通じて感じること

- ① 活動の中では、子どもの読書離れはあまり感じられないが、本が嫌いな子や本から離れている子ども、家庭で読み聞かせをしてもらっていない子どもがいるので、そういった子どもへの対応が必要である。
- ② イベントなどの開催や、展示、本の見せ方の工夫、アウトリーチなどによって、子どもたちに読書に興味や関心を持ってもらうきっかけや環境づくりが重要である。
- ③ 子どもの読書活動を推進し、保護者や子どものニーズの多様化に対応していくためには、子どもの読書活動を推進する人材の育成が重要であるとともに、ボランティアとの連携や市民との協働の場や機会が必要である。
- ④ 市立図書館の児童サービスが手薄になっている印象があるため、児童サービスに携わる司書の確保と育成が必要である。

(2) 子ども図書館への要望

- ① これまでどおり、図書館や学校図書館、地域等と連携を図ることが重要であるが、子ども図書館では、現在実施できていない児童サービスや、子ども図書館独自の新しい取り組みが必要である。
- ② さまざまな情報機器が出ているが、紙の文化を大切にしてほしい。子どもが紙の本に触れ、のびのびと気兼ねなく利用できる図書館が望ましい。
- ③ 施設や設備については、子どもがゆったりとくつろげるスペースや発達段階に応じた機能や設備を備えたスペースを確保してほしい。飲食可能な場所や中・高校生が利用できる静かな学習室等、活動内容に応じたスペースが必要である。
- ④ 機能やサービスについては、子どもの利便性や安全面に配慮したサービスや、地域の産業や歴史、文化等、郷土を知るための蔵書や展示、子どもが本に興味を持つような蔵書や書架のレイアウト、イベントの開催など、子どもの目線に立ったサービスが必要である。また、読み聞かせの異年齢交流をはじめ、団体の活動やスキルが発揮できる場が望まれる。
- ⑤ 子ども図書館の立地条件として、おさんぽバスや路線バスの運行など、子どもたちの利便性を考慮した場所が望ましい。
- ⑥ 市立図書館の児童サービスに携わる人材の確保と育成が重要である。

5. 市立図書館の児童サービスや各団体の読書活動を通じて感じること

①浦安市の図書・読書文化について

- ・ 中央図書館ができる以前は、絵本といえば「桃太郎」くらいだったが、図書館ができて様々な絵本が置かれ、読み聞かせなどを行ったことで、読書に関する意識が高まった。現在の保護者は、子どもの時にこの図書館サービスを受けてきた世代である。自分の子どもたちに読書経験や読書習慣を受け継ぐことで、子どもの読書環境はさらに良くなっている。
- ・ 近年、小学校の毎朝 10 分の朝読書が、高学年になると一部の曜日を除いて、朝学習に変わっている。
- ・ 浦安の郷土資料に怪談などがある。(教育委員会が 1980 年代に作成した『浦安の昔ばなし』『続・浦安の昔ばなし』に掲載)。
- ・ 浦安市在住の絵本作家もいる。

②活動を通して感じる子どもの変化

- ・ ゲームが好きな子どもでも、自身の興味がある本は読んでいるので、読書離れは特に感じていない。
- ・ 正月に小学生(低学年)とカルタ遊びをすると、今の子どもも喜んで遊んでいる。
- ・ 学校で読み聞かせを長年しているが、子どもの本への関心は特に変わっていない。
- ・ 保護者の変化(本に関心がない、子どもが情報にさらされていることに無自覚)の影響がある。

③子どもの読書離れの対応について

- ・ 子どもに無理やり本を読ませようとすると、子どもは本から離れていくので、子どもが興味を持っている本をとっかかりとしていくことが大事である。
- ・ 幼少より本を読んできた子どもは、無意識のうちに手にとって本を読んでいることが多い。
- ・ 本から離れている子どもに、本に興味を持たせるようにすることが重要である。(個人の関心に応じたお薦め本リスト作成など)
- ・ 本が嫌いな子どもに、どうやって図書館に足向けさせるかを考えるとよい。
- ・ ボランティアにも協力してもらい、学校図書館の活用促進を図る。
- ・ 学校で読み聞かせを現在も行っているが、子どもたちは読み聞かせの後、好きな作者の本を探すなどをしており、読書離れは感じられない。

④既存の浦安市図書館に対する意見や要望等（サービスについて）

- ・ 各館で、紙芝居の枠の貸出サービスがあり、非常にありがたい。
- ・ 浦安市は、徒歩や自転車などで行ける範囲に図書館があるのでありがたい。
- ・ 各館で、館内の飾り付けが工夫されていて雰囲気が良い。
- ・ 以前は移動図書館があつて、とても便利だった。
- ・ 蔵書検索がパソコン上でしか見られないので、不便に感じることもある。
- ・ 絵本の表紙の見せ方を工夫し、良書のPRもして、多くの人が借りられるようにしてほしい。
- ・ 中央図書館では、大型絵本は開架スペースに出ていないため、手に取れず、検索も難しいので、不便に感じる。
- ・ 毎日でなくてもいいので、開館時間を延長してほしい。
- ・ 紙芝居の所蔵が少ないと感じる。紙芝居を選んだり、借りたりする際、書架から取り出しづらいので、改善してほしい。
- ・ 子どもが好きなキャラクターものの本の所蔵がない。
- ・ 子どもが喜ぶ大型絵本や怪談の絵本など、流行の本の所蔵が少ない。
- ・ 書架がわかりづらく、本が探しにくい。書架に埋もれている本を、子どもたちに手にとってもらうための検討や取り組みが不十分である。
- ・ 閲覧席を増やしてほしい。

⑤既存の浦安市図書館に対する意見や要望等（人材について）

- ・ 児童サービス担当の職員が少なく、サービスが手薄な印象がある。ボランティアを募集してはどうか。
- ・ 人材育成が十分でないと感じる。若い職員をどのように育てているのかが見えない。
- ・ 経験のある司書が辞めたり、異動したりするなど、職員数が減少しており、このままではこれまでのような児童サービスの継続は難しいと感じている。
- ・ 図書館の児童室に行っても、目的の本以外の出会いがない。司書が「どうしてもこれを読んでほしい」という本を伝えてほしい。（例：「司書〇人のうち〇人がお勧め」「AMAZONでは〇位だけど、司書では〇位」等）
- ・ 司書と市民と一緒に連携しながら学べる場をつくってほしい。利用する側の人材育成になり、市民からよい提案が出ることにもつながるのではないかな。

⑥その他

- ・ 市（こども課）が実施する子育てケアマネジャーの養成講座やバックアップ研修を受けたが、子どもとの接し方を学ぶことができ、読み聞かせの活動にも有益であった。
- ・ 小学生に読み聞かせをしていると、「自分が読みたい」といって小さな子どもたちに読み聞かせをしてくれることがある。
- ・ 市内の保育園（民営）に司書が置かれたと聞いた。児童サービスを考える上で、子どもたちにどのように影響するか、注目している。

6. 子ども図書館への要望

①子ども図書館整備の方向性について

- ・ これまでの浦安の児童サービスの実績を活かすのか、全く新しいことをするのか。どちらにしても既存の図書館ではできないことを目指す必要がある。
- ・ 浦安市は、いろいろな部署で類似する講演会等を開催しているので、取り組みが重複しないように整理する必要がある。
- ・ 中央図書館や分館、公民館、学校等との連携を重視してほしい。特に分館が近くにない学校図書館との連携は課題のひとつであり、学校司書への支援が求められている。
- ・ 学校に行きづらい子どもの居場所になってほしい。
- ・ あらゆる人を受け入れる開かれた図書館であってほしい。
- ・ 子どもが子ども図書館でのびのび過ごせるよう、制限を少なくしてほしい。
- ・ しっかりした内容の本を、集中して読める環境を整えてほしい。
- ・ タブレットを利用した読み聞かせよりも、紙の本に触れる場であってほしい。
- ・ 新しい子ども図書館の建設も大事であるが、なぜ子ども図書館をつくる必要があるのか、しっかりと検討すべきである。あせってつくるべきではない。まずは子どもにより近い学校図書館や、既存の児童室の活用を進めるべきである。

②施設や設備等について

- ・ ゆっくり本を読んだり、のんびりくつろぐことができるスペース
- ・ 仕掛け絵本など子どもが遊べる本がたくさんおいてあるスペース
- ・ 小学校高学年や中・高校生が、読みたい本を手に取りやすいコーナー
- ・ 子どもが発表やイベント等ができるスペース（生の声が届く広さ。定員20～30人くらい）
- ・ 子どもが少々騒いでもよいプレイルーム（木のおもちゃ等の遊びができる場所）
- ・ 靴を脱いで本を読めるスペース
- ・ 南小学校の図書室のような「あがりがまち」や照明設備があるとよい。
- ・ 子どもが寝転んだりしながら本を読めるスペース
- ・ 椅子がたくさん置いてあるとよい。
- ・ 東京子ども図書館のように、小さな子どもしか通れない小さな入口や、小さなイスやテーブル、子ども用の小さなトイレがあるとよい。
- ・ 壁一面を書架にした部屋など、テーマ別の小さな部屋がたくさんあるとよい。
- ・ 子どもが興味のあるものと本をつなぐようなスペース（スタジオ等）
- ・ DVDやビデオを観られるスペース
- ・ 持ち込みができる飲食スペース（電子レンジ設置）やカフェ等（本を読みながら飲食すると、本が汚れる可能性もあるのでルールは必要）
- ・ 子どもはのどの渇きを我慢するのが難しいので、飲み物が飲める場所が複数あるとよい。
- ・ 中・高校生のための静かな学習スペースやミーティング、実験、歌を歌える場所
- ・ 小さな子どもが寝てしまった時のためのベッド
- ・ 子ども図書館を受験勉強の場にしてほしくない。

③機能やサービスについて

- ・ 本の表紙の見せ方や並べ方によって、子どもの反応は変わるので、工夫してほしい。
- ・ 浦安がおもしろいと思える本（浦安の昔話、浦安出身の作家関連）を集めて展示すれば、郷土学習につながる。
- ・ テーマ（ディズニーについてや映画関連の本など）が定期的に入れ替わるコーナーがあるとよい。
- ・ 保護者が絵本をじっくり選ぶことができるように、保育・託児などを取り入れてほしい。
- ・ 親も楽しめる図書館になるように、大人のための読み聞かせを実施してほしい。
- ・ 本に関連する作品（陶芸など）や、絵本の世界をフェルト等で表現したものなど、本に関連する物が一緒に置かれているとイメージが広がるとよい。
- ・ あやとりや折り紙などの遊びに関連する本と、実際に遊び方を教えてくれる人が揃ったサービスやイベントがあるとよい。
- ・ 子ども図書館に親しめるイベント（お泊り会やスタンプラリー）
- ・ 一定の年齢に達した子どもへの、子ども図書館卒業証書の授与
- ・ スタンプカードなど、自分が借りた本の冊数がわかるサービス
- ・ ブックトークや朗読会（円になって回し読み）の開催
- ・ パネルシアター、エプロンシアター、ペープサートの開催
- ・ 子ども向けの本の福袋や不用品バザー、古着譲渡会等のイベントを開催し、立ち寄る人を増やすとよい。
- ・ テーマを設定した本の紹介や企画展の開催
- ・ バリアフリー機能
- ・ 来館できない子どもや子どもをわくわくさせるために、移動図書館を導入してほしい。
- ・ 送迎バスがあるとよい。

④人材育成・確保について

- ・ 読み聞かせボランティアを配置してはどうか。
- ・ 職員だけでサービスができないなら、ボランティアの活用や養成が必要である。
- ・ 市民向けの研修機動的な要素も必要である。
- ・ 人形劇を行う団体もあるので、連携できるとよい。
- ・ 経験豊富な児童サービスの担当職員が子ども図書館に異動した場合、既存館の児童サービスがさらに弱くなる恐れがある。
- ・ ボランティアの養成・活用は難しい。研修をしても、図書館の意図とは違い、ボランティア独自の考えや価値観で読み聞かせなどを実施してしまう可能性もある。
- ・ 子ども図書館をつくらなくても、児童サービス担当職員を育成し、各館の児童室や蔵書を充実させればよいのではないか。

⑤子どもの参加について

- ・ 年齢が上の子どもが、下の子どもの読書活動を手助けする仕組みがあるとよい。
- ・ 小学1～3年生は音読をしているため、これを活かせる活動があるとよい。(未就学児への小学生の読み聞かせや、本のまわし読みなど)
- ・ 子どもが、図書館の業務や行事などに関われる仕組みがあるとよい。
- ・ 子ども対象のリーダー研修や、その成果を発表する場があるとよい。
- ・ 子ども図書館を子ども目線で考えるとよいのではないか。子ども館長や司書体験、子どもによるお薦め本のポップ作成など、子どもに関われるコーナーがたくさんあるとよい。
- ・ 司書のお薦めだけでなく、子どもが薦める本のコーナーがあるとよい。

⑥立地について

- ・ おさんぽバスが通る場所、複数のルートが交わる場所にできるとよい。
- ・ バスが走っていても、子どもにとって遠いと行きづらいので、子どもが多い地域に作ってほしい。
- ・ 駅前に設置してほしい。
- ・ 舞浜駅周辺には子ども関連の施設がないので、舞浜周辺にできるとよい。
- ・ 近くの施設でイベントがあると、ついでに図書館を訪れる人が増える。“ついで効果”は非常に大きいため、周辺施設の状況の視点から立地を検討する必要がある。
- ・ 大人の本がある図書館の近くに設置すれば、子どもは子ども図書館、大人は既存の図書館と使い分けができてよい。

⑦団体として関われること

- ・ 人形劇の開催
- ・ 未就学児や児童への読み聞かせ
- ・ フェルトによる絵本の世界の制作
- ・ 布の絵本の制作